令和６年６月３日（月）に小・中学校の生徒指導担当者を対象に「小・中生徒指導担当教員連絡協議会」を開催しました。

この会議は、①生徒指導担当者と関係機関との連携を深めること、②最近の状況や事案等、必要な情報共有を図ること、③生徒指導関連の諸問題に関する知識理解を深めることを主な目的に、警察や少年サポートセンター、県教委やこども若者相談センターなどの関係機関の方々にもご出席いただき、毎年開催しています。

これまでの会議においても、各学校の取組に生かしていけるよう、各校の実践を交流したり、講師を招聘した研修を実施したりするなど、様々な形で生徒指導に関する情報共有や、知識理解の深化に努めています。

今回の会議では、まずはじめに出席いただいた関係機関の皆さんから、近隣も含めた問題行動等の状況について情報共有していただきました。その後、本市の問題行動等の状況や、いじめや重大事態に対する初期対応の仕方、問題行動調査の考え方等について、市教委の担当指導主事より説明しました。

最後に、「生徒指導提要の改訂に関する協力者会議」で副座長を務められた関西外国語大学の新井肇先生をお招きして講演していただきました。この講演では、令和４年１２月に改訂された生徒指導提要をもとに、児童生徒の主体的な成長・発達を支えていく働きかけを生徒指導の基盤とするこれからの生徒指導の方向性について、教職員の理解を深めていくことを目指して実施しました。

また講演では、「学びの探究」特別講座第１弾とも題して、生徒指導担当教員以外も出席できるようにし、幅広く教職員が参加できるようにいたしました。

参加者からは、「『させる』生徒指導から『支える』生徒指導への転換という意識改革が必要」「『困った（行動をする）子は（課題を抱えて）困っている子』という視点に立つこと再認識した」といった感想が寄せられ、生徒指導提要の理解を図る一助になったと思います。

引き続き、様々なテーマにおいて教職員の知識理解を深める研修や会議等を企画していきたいと思います。